



そこはかとなき想い出

綱島 長明

戦前は物でも人でも、「古い」ということは尊重される一つの原因でしたが、戦後は廃物の代名詞、人間様なら時代錯誤の標本へ、その持つ意味が大分変わったようです。自分では若い積りですが、何時の間にか中学校では老人組のいいところに成り上り？ 全くどうも。数年前運動会のリレーに自信満々で女の子と一緒に走ったところ追い抜かれてから全

く自信喪失、以来身の程をわきまえて子供達には「お爺ちゃん」といわせています。

「古い伝統に新しい技術」と何処かの広告の文句ではないけれど、中学校も「古い伝統に若い教師」と、甚だ結構なのですが老人組は「古い廃物」にならぬよう、心得う可きことにこそで、新時代の波に合わせる可く心得えていながら、本性たがえず、つい「昔は」などと口が滑り……。あの「昔は」というのは決していい趣味ではなく、大体若い方にはそっぽ向かれ、後で「古い！」といわれるのが落ちのようです。極力控えてはいますが、物言わざれば腹ふくるるのわざとやら、此処なら他に余り被害を及ぼさないかと思つてチョッピリ「昔」のことを。

私が岡山の田舎から筈ならぬ蒲団袋、柳行李と一緒に、当時中学の寮だった北寮へ御世話になったのが昭和二年。以来十一年迄約十年間の同志社生活。俺のヒゲは北寮の飯で出来たというのがひそかな自慢です。

あの頃から今に至る迄残っている建物といえは煉瓦造は別として、聚芳館と学生会館位のものでせう。思えば変わったものです。

さて当時同志社は中学校令によらず、従っ

て「中学」といつていたように思います。まるで今の大学生の扱いで、あんなにのんびりしたところはなかったらうと思います。

大学では専らラクビー学を勉強したものですから卒業の時、果して学問の方も卒業させて載れるかと心配になり、今の弘風館の東北角辺りでせう本部の小さい木造二階建があり、その下の部屋で現在、経済学部事務長の小林喜久雄さんが、休暇中の静かな校庭に向い、窓を明け放つて卒業証書に名前を書き入れておられたので、窓から首を突込んで、すみませんが私のはありますかと尋ねたら早速名簿を繰って、安心しなさいありますよと言つて下さった。お蔭ですっかり気をゆるし、卒業式当日には朝寝し過ぎ、目が覚めたら式が終っていました。

何時だったか、今なら君達、大学にはとても入学出来ないぜと言われて、御冗談でしょう、今のようなマス・プロでなく当時は精銳主義ですよ、と答えたことがあります、兎もあれ正直なところ今の中学生を始め学生、生徒諸君はよく勉強する、或いはさせられているのか知れませんが感心しています。ただ私達の頃は中学は一学年百四、五十名、京都市内

から来ているのは半分位で、他は四国、中国、

九州、遠くは漢口、朝鮮、台湾から。今でいえば正に国際的で、従って一種独得な風があり、悪戯もさんざんしましたが可愛がってても載き、或る面では気合が入っていたと自負しています。大学にしても、校友会名簿を調べると私の卒業時神学部十五、英文科二十、主力の経済学科百四十七、政治学科三、法律学科三十一名しめて二百十六名。だから運動している連中、或いは部のファンで試験の前には自ら家庭教師を買って出て、おまけにやま迄張ってくれ、我々の卒業に大いに貢献してくれた同僚の諸君。あれこれとたどって行けば殆んど部科は違っていました。が顔馴染でした。試験の方は宜しく頼み倒す方法もありましたが、林要先生のように、学生数が少ないので毎時間十四五名宛致遠館二階の教室に残されて、コッテリ口頭試問で油を絞られる方もありました。

それが今では一学年三千名位でせう。思えば同志社も大きくなったものです。何処に誰がいてどうなのやら、その点今の学生諸君は気の毒に思います。貧乏同志社時代がよかつたなと思っているのは私だけではないでせう

が、これが古いんですな。

聖書には宝を天に積みと教えてあります、敗戦という事故で戦前の財産をすっかり無くして感じたのは、宝とは世にいう地位、財産ではなく、人と人のつながり、友情だということです。極言で大学の先生には叱られるかも知れないけれど、私は一生のこととして、学校は人と人のつながり、知己を得ることにありと思ひ、又そう言っています。その点今の学生は、余りにも多すぎて、隣は何をする人ぞと、却って同学のよしみも薄れ気の毒に思っています。

又学生、生徒数が増えると教職員数も増え、結果としてその親密度も減じ、総てが規則で律せられる。恐らく今では、卒業式前にこの名簿にありますかなどと、呑気に尋ねて行く者もないでせうが、わざわざ手を休めて名簿を繰って教えてくれる人もないのじゃないですか。何時か有終館横の掲示板に「組織が大きくなれば機械的に流れ易く云々」と新島先生の言葉が出ていましたが、実は皮肉な気持ちで眺めていました。バベルの塔は高くなればなる程注意しなければならぬものがあるでせう。

私達の中学校は大学と異なり、世にいうプームも過ぎて児童の絶対数漸減期に当面しています。私の希望は、同志社がただ京都市中の一中学校ではなく、かつて私達が学んだ時のように、遠く笈を負って各地から集ってくられるような学校になって欲しい、又それに相当するだけの魅力を持つ学校にしたい、さてそれではそれに見合う魅力とは？大きな問題を抱えて唸っています。

私は、人の価値が棺の蓋を覆って初めて定まるものなれば、棺桶に入る最後の時「よくぞあの学校に学んだものだ、善哉善哉」と思つて貰へるのが本当にいい学校であり、本当にいい教育だと思います。

現状に甘ずけることは許されません。大学へのエスカレーターのみが魅力であつてはならない筈です。幾多の悩みを持ち、問題を抱えてよりよき学校へと苦悩している私達へ諸賢の御助言を切に望む次第です。

(中学教頭・体育)